

## 「医療費無料化の中学生まで拡大」について

## 1. 事業内容

福祉医療費給付金の給付対象者を、小学校卒業までの者から中学校卒業までの者に拡大する。

## 2. 拡大による対象者数

約2,900人

(平成24年度市内中学生数による。)

## 3. 拡大に伴う費用

約28,000千円(12月分)

ただし、初年度は24,000千円

(医療費制度から請求は2ヶ月後となるため、初年度の所要費用は10月分となる。)

## 4. 実施時期

平成25年4月1日

(平成25年3月議会に、条例改正案と予算案を上程する。)

## 5. 対象者への周知

- ・全対象者に個別通知(対象拡大案内と申請書提出)する。
- ・市広報紙(4月号)及び市HPにより周知する。
- ・市内医療機関(医師会、歯科医師会、薬剤師会)に通知する。

世界最高健康都市構想		
基本的方針	施策の方向	主要な施策
ひとの健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健からのアプローチ</li> <li>・食育と地産地消の推進</li> <li>・子どもの体力向上と運動習慣の定着</li> <li>・禁煙の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい視点での保健活動の展開</li> <li>・食育の推進</li> <li>・運動習慣の定着</li> <li>・禁煙のための教育や啓発の推進</li> </ul>

医療費無料化を中学生まで拡大  
福祉医療費の給付対象年齢を小学校卒業までから中学校卒業まで拡大



・病気になるない体づくり  
・ケガをしない体づくり



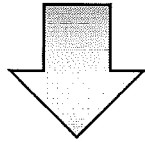
小中学生の健康の現状

①肥満の状況  
小中学校ともに、割合は減少傾向にある。

②血液検査による高コレステロールの状況  
小中学校ともに、割合は上昇していて、特に近年の上昇率は大きい。

高コレステロールの割合が増えている要因は、子どもの偏った食生活や不規則な生活習慣、運動不足が大きく影響している。

大人になってからの生活習慣病の発症のリスクが高くなるため、子どものうちから生活習慣の見直しをすることが大切である。



### 小中学生に対する保健事業の充実

事業の目標

健康増進（栄養・運動・休養）

取り組み

- |                            |                      |                |                       |
|----------------------------|----------------------|----------------|-----------------------|
| ①健康<br>管理<br>意識<br>の<br>育成 | ②保健<br>指導<br>の<br>充実 | ③食育<br>の<br>推進 | ④体力<br>づくり<br>の<br>推進 |
|----------------------------|----------------------|----------------|-----------------------|

効果

将来に向けての健康づくり



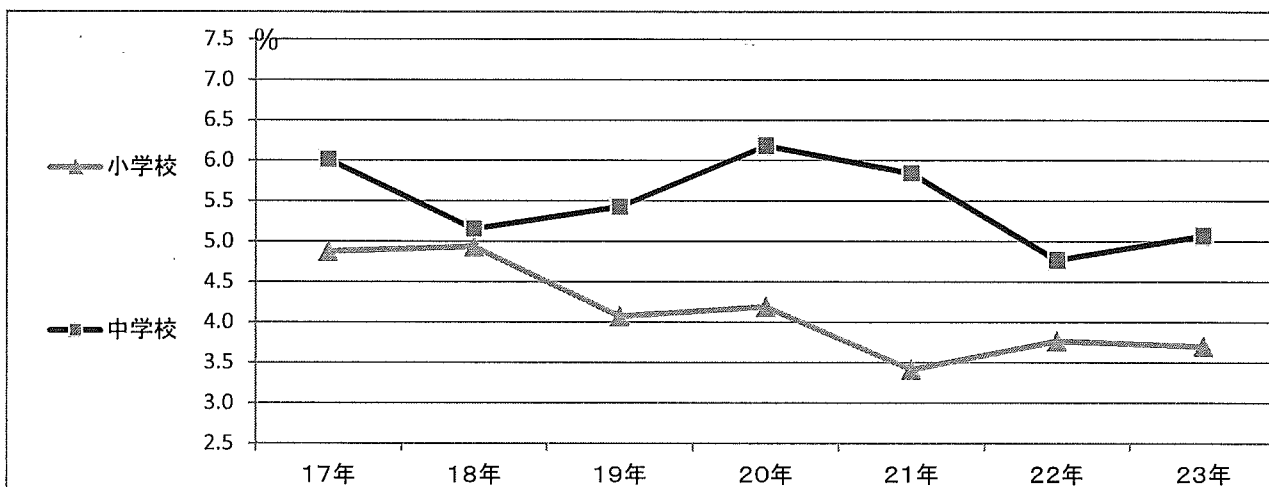
世界最高健康都市  
子どもたちを豊かに育むことができるまち

## 平成23年度分 佐久市小・中学校 学校状況

### 1. 肥満(標準体重30%超、ローレル指数160以上)

《単位: %》

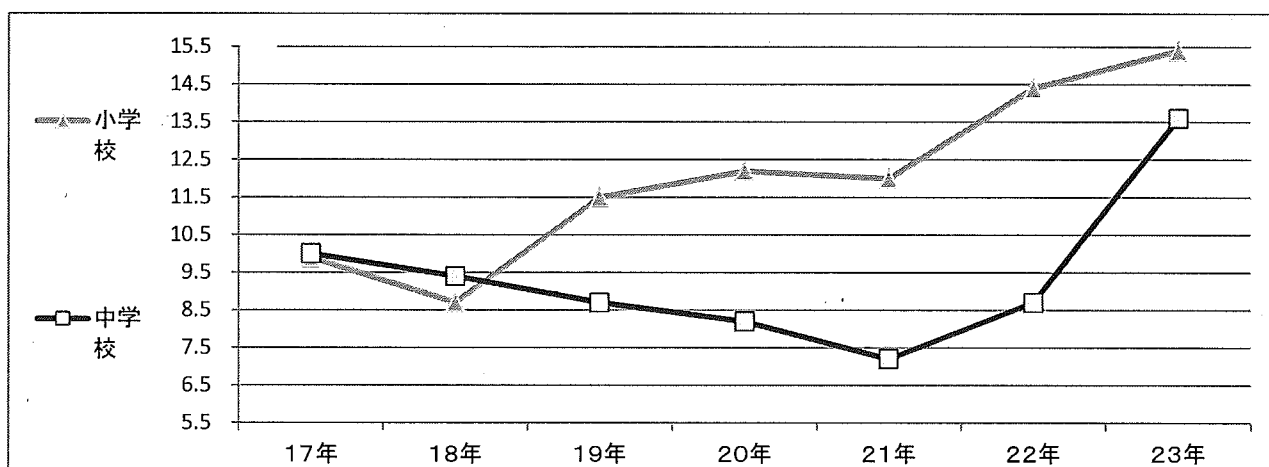
学校名	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
小学校	4.9	4.9	4.1	4.2	3.4	3.8	3.7
中学校	6.0	5.2	5.4	6.2	5.8	4.8	5.1



### 2. 高コレステロール(200mg以上で調査)

《単位: %》

学校名	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
小学校	9.9	8.7	11.5	12.2	12.0	14.4	15.4
中学校	10.0	9.4	8.7	8.2	7.2	8.7	13.6



**(現 状)**

1. 肥満については、小中学校ともに、割合は減少傾向にある。
2. 高コレステロールについては、小中学校ともに、割合は上昇していて、特に近年の上昇率は大きい。

**(考 察)**

肥満の子どもの割合が減少傾向にある中、高コレステロールの子どもの割合が年々上昇していることから、肥満体型ではない普通体型の子どもにおいて、高コレステロール化が徐々に進行しているといえる。

普通体型の子どもにおいて、高コレステロールの割合が増えている要因は、子どもの偏った食生活や不規則な生活習慣、運動不足が大きく影響していると考えられる。

**(課 題)**

高コレステロールの状態が改善されない場合には、大人になってからの生活習慣病の発症のリスクが高くなるため、子どもうちから生活習慣の見直しをすることが大切である。